

#### 1 4) 医療機関の情報提供についての自由記載

(医療機関タイプ別に主なものを列記した。特に今回のアンケートの趣旨ではないことについては割愛した。)

##### 【歯科大学・附属病院】

- ・ 説明に対する対価が欲しい 3 件
- ・ 口頭で説明後、治療方針を書面化するのに対価として採算が合わない 1 件
- ・ 医療の質を高めるために指針が欲しい 1 件
- ・ 検査結果が出ないうちから予測して文書化するのが困難 1 件
- ・ 患者の治療内容等に差異があるので難易度を一緒にできない 1 件
- ・ 個人情報保護法の対応の検討が必要 1 件

説明や文書化に要する時間への対価を求めている。

##### 【病院歯科】

- ・ 情報提供は当然である 2 件
- ・ 情報提供を制度として規定するのはおかしいし、対価がない 2 件
- ・ 初診料の点数が低い 2 件
- ・ 情報提供を書面化する時間がない 2 件
- ・ 書面による情報提供が良いとは言えない 2 件

情報提供に積極的な意見、「文書化」に対する対価を求める意見、口頭で説明したほうが患者にとって良い場合もあるという意見がみられた。

##### 【歯科診療所】

- ・ 文書による情報提供がよい場合と悪い場合がある 7 件
- ・ 情報提供を作成する時間がない（手間がかかる） 5 件
- ・ 今後、電子カルテやパソコン等の機器を駆使した情報提供が必要 3 件
- ・ 人間味のある情報提供が必要 3 件
- ・ 「かかりつけ歯科医初診料」と「歯科初診料」を区別する必要はない 2 件
- ・ 歯科初診料の点数が低い（診療報酬の見直し） 2 件

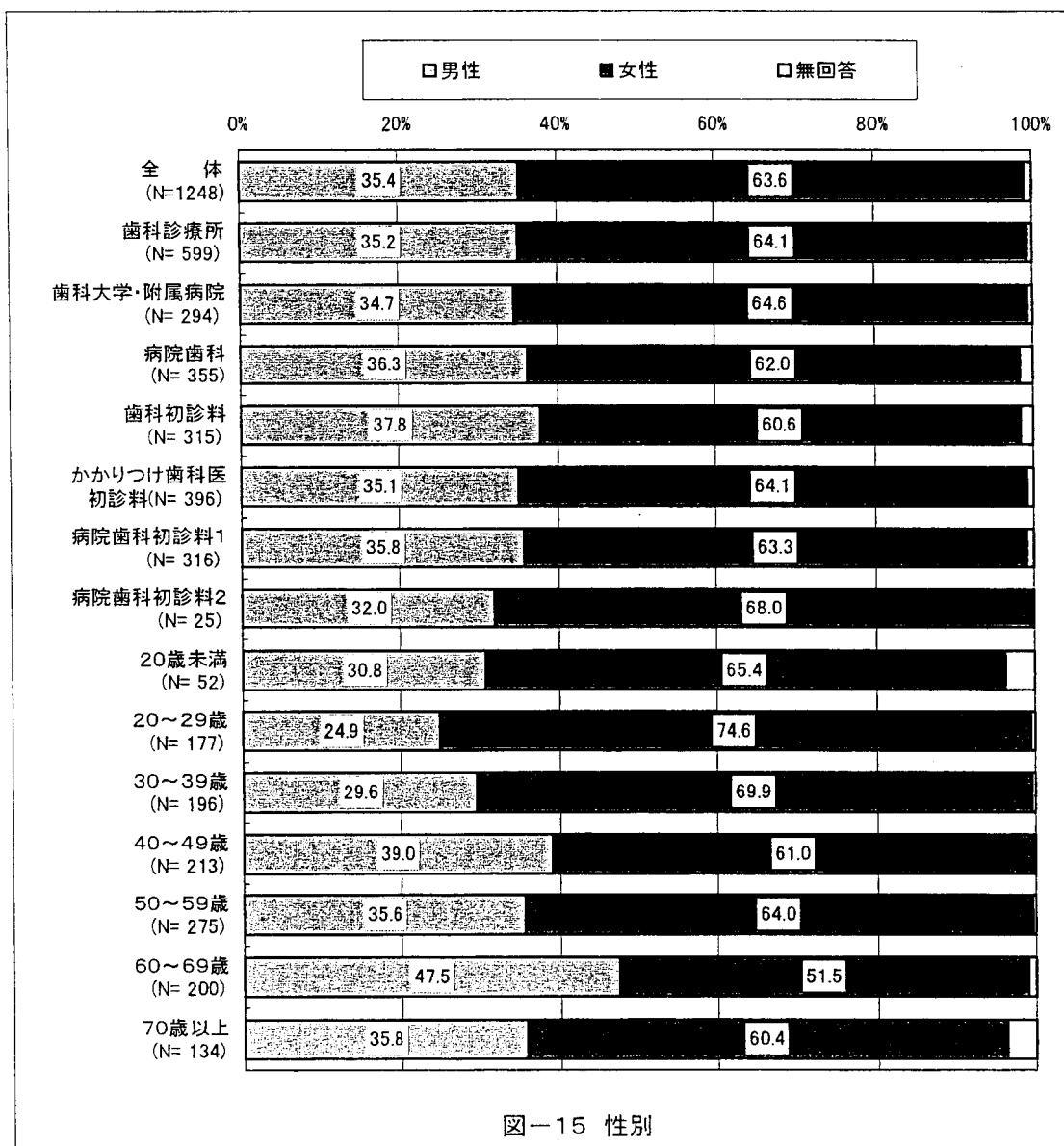
- ・ 情報提供の全国統一化 2 件
- ・ 口頭説明と文書での説明は同じである 2 件
- ・ 情報提供がうまく伝わるかが不安である 2 件
- ・ 情報提供の推進 2 件

文書による情報提供より「口頭説明」の方が良い場合があるとの意見、情報提供を推進すべき方向性や方策についての意見、文書化に対する対価を求める意見が多い。

## 2. 患者

### 1) 性別について

性別に全体で見ると、「男性」が 35.4%、「女性」が 63.6%との回答であった。また、医療機関の種類別に見ても初診料の算定別に見てもその傾向は殆ど変わらなかった。年代別では 20 代の女性の割合が最も高く、60 歳代ではほぼ拮抗していた(図-15)。

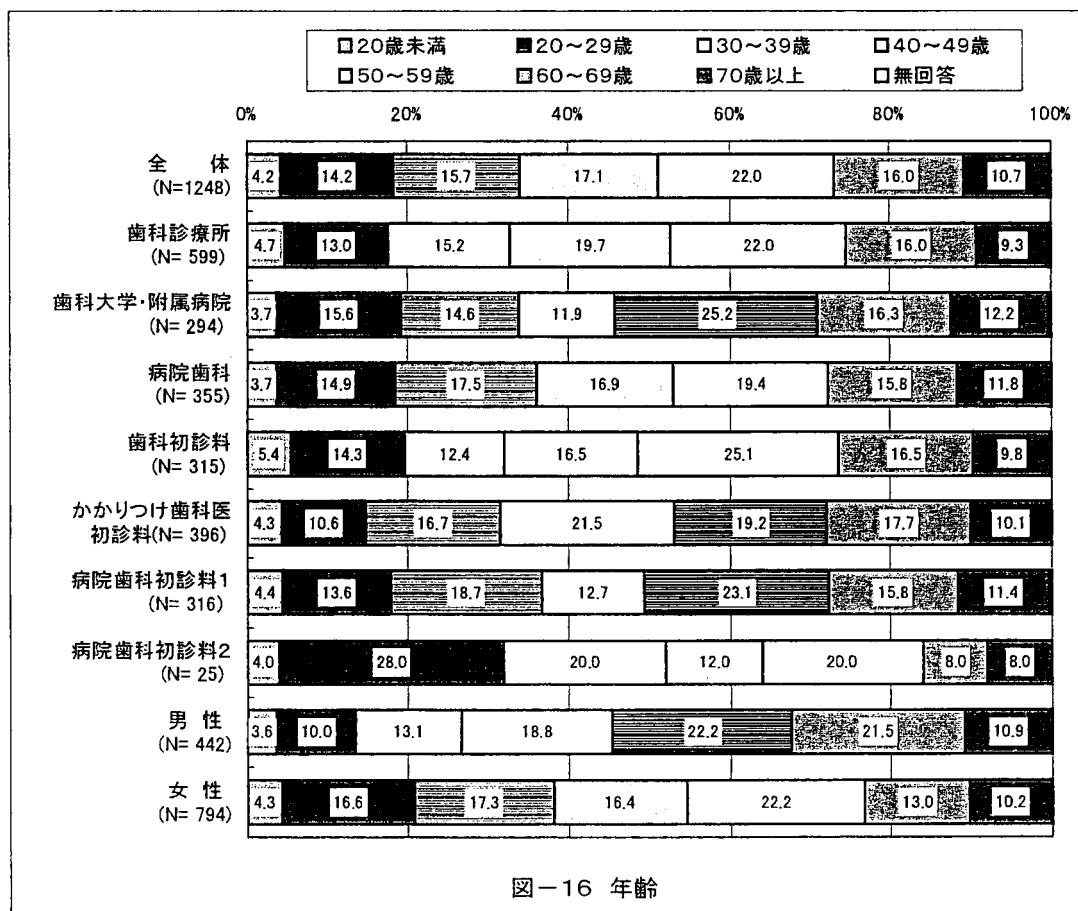


## 2) 年齢について

年齢についての回答を全体で見ると、「50代」が22.0%、「40代」17.1%、「60代」16.0%、「30代」15.7%、「20代」14.2%、「70代」10.7%、「20歳未満」が4.2%であった。年齢の平均は47.41歳、標準偏差は17.42であった。

医療機関の種類別に見ると、歯科診療所では、「50代」が22.0%、「40代」が19.7%、「60代」16.0%、「30代」が15.2%との回答であった。歯科大学・附属病院では、「50代」25.2%、「60代」16.3%、「20代」15.6%、次いで、「30代」の14.6%との回答であった。病院歯科では、「50代」19.4%、「30代」17.5%、「40代」16.9%、「60代」15.8%との回答であった。

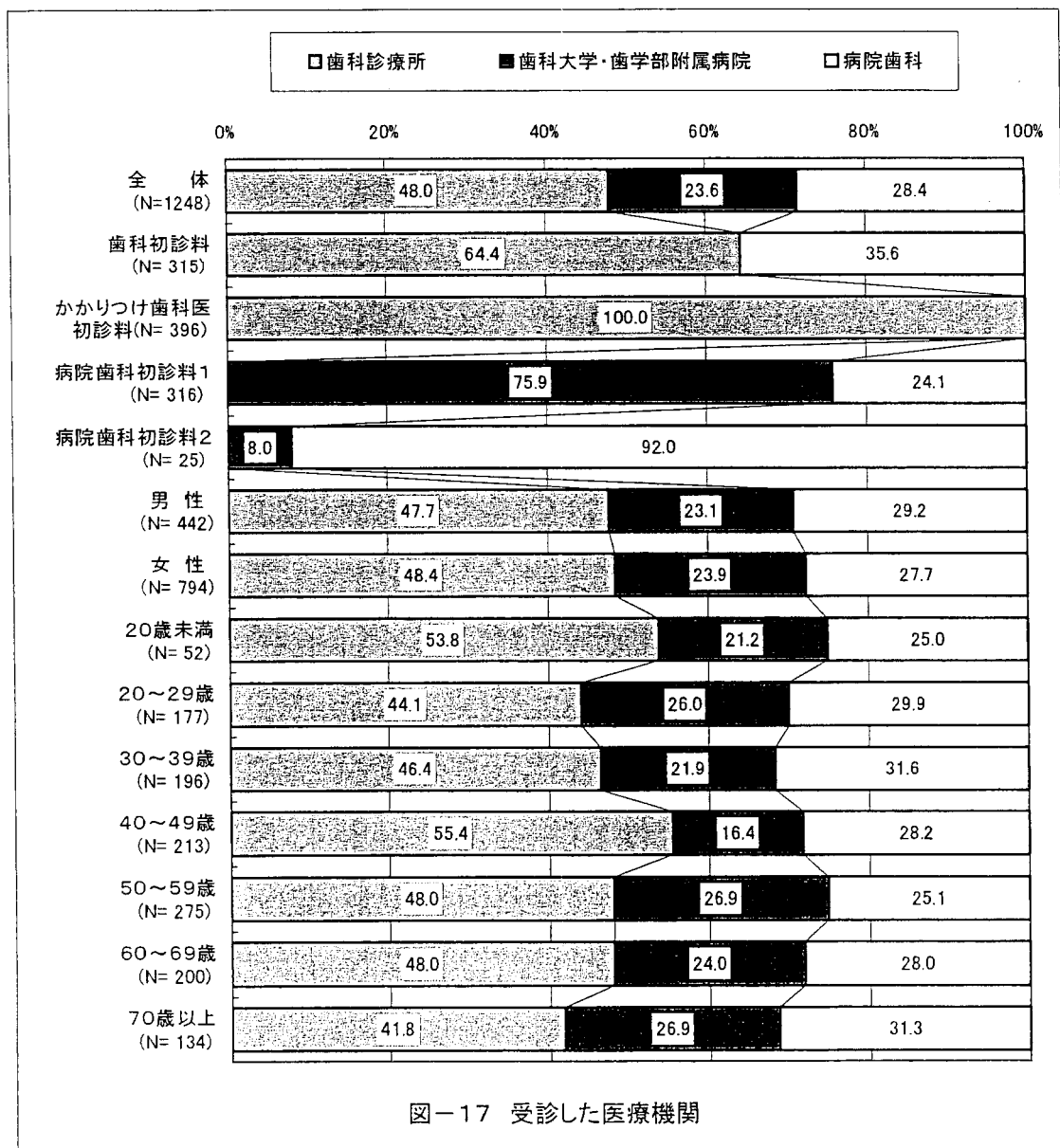
一方、初診料の算定別にみると、歯科初診料では、「50代」が25.1%、「40代」と「60代」が16.5%、「20代」が14.3%との回答であった。かかりつけ歯科医初診料では、「40代」が21.5%、「50代」が19.2%、「60代」が17.7%、「30代」が16.7%との回答であった。病院歯科初診料1では、「50代」が23.1%、「30代」が18.7%、「60代」が15.8%、「20代」が13.6%との回答であった。病院歯科初診料2では、「20代」が28.0%、「30代」と「50代」が20.0%、「40代」が12.0%であった。(図-16)。



### 3) 受診した医療機関について

受診した医療機関を全体で見ると、「歯科診療所」が48.0%、「病院歯科」28.4%、「歯科大学・歯学部附属病院」が23.6%との回答であった。

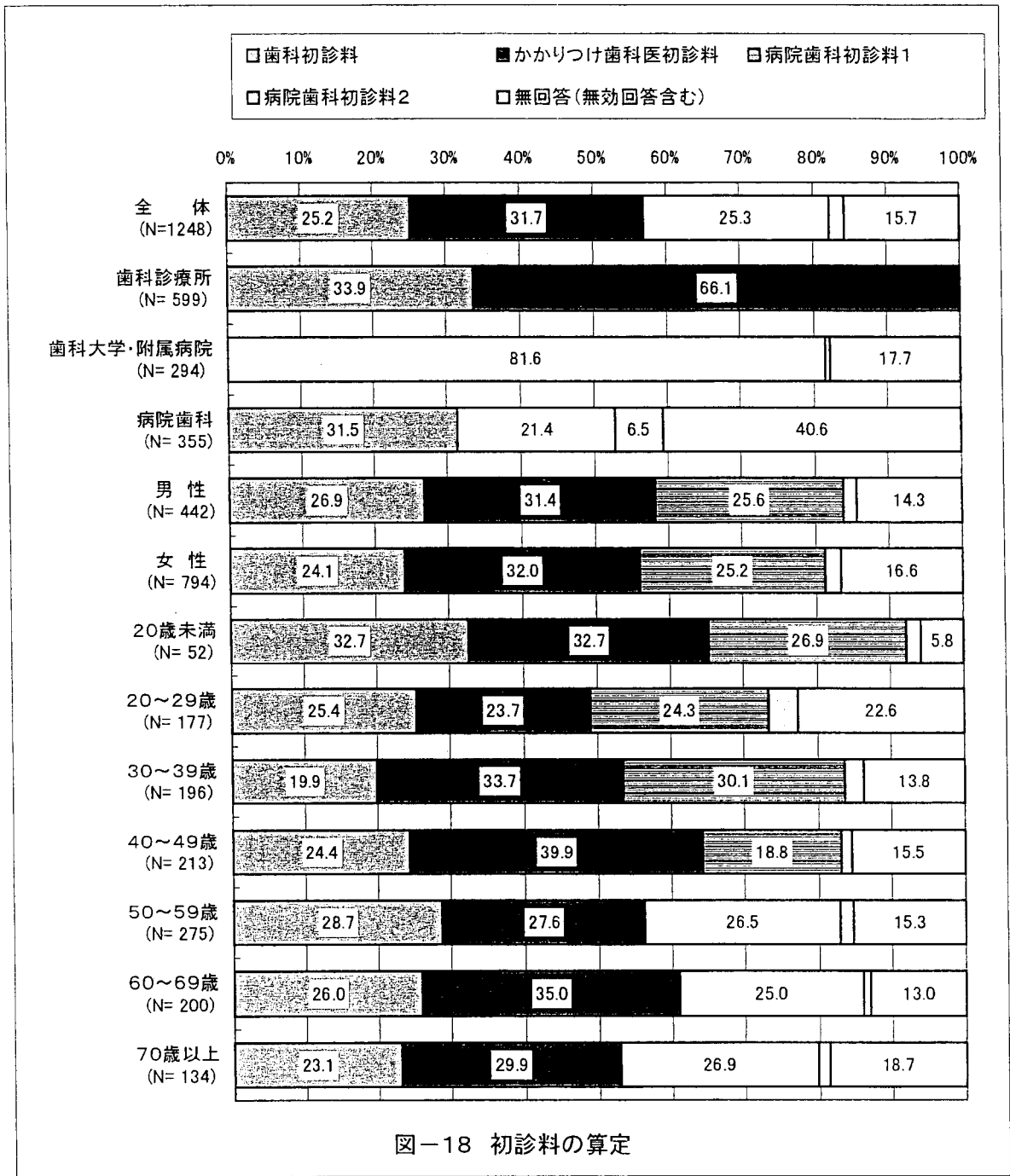
また、初診料の算定別に見ると、歯科初診料と回答したうちの、64.4%が「歯科診療所」、35.6%「が病院歯科」であった。かかりつけ歯科医初診料は、100.0%が「歯科診療所」であった。病院歯科初診料1のうちの、75.9%が「歯科大学・附属病院」、24.1%が「病院歯科」であった。病院歯科初診料2では、「病院歯科」が92.0%、「歯科大学・附属病院」8.0%であった。性別での差はみられなかった（図-17）。



#### 4) 初診料の算定について

初診料の算定については患者用調査票の表紙に当該患者に算定した初診料の医療機関記入欄を設け、患者毎の初診料の種類を調査した。初診料の算定についての回答を全体で見ると、「かかりつけ歯科医初診料」が 31.7%、「病院歯科初診料 1」25.3%、「歯科初診料」は 25.2%、次いで「病院歯科初診料 2」が 2.0%（無回答・無効回答は 15.7%）であった。医療機関の種類別にみると、歯科診療所では、「かかりつけ歯科医初診料」は 66.1%、「歯科初診料」が 33.9%であった。歯科大学・附属病院では、「病院歯科初診料 1」が 81.6%、「病院歯科初診料 2」が 0.7%、病院歯科では、「歯科初診料」が 31.5%、「病院歯科初診料 1」が 21.4%、「病院歯科初診料 2」が 6.5%（無回答・無効回答が 40.6%）であった。無回答・無効回答についての割合が高いこと、特に病院歯科での割合が高いことに留意して、全体の傾向を読まなければならない。性別で見ると、男性では「かかりつけ歯科医初診料」が 31.4%、「歯科初診料」26.9%、「病院歯科初診料 1」25.6%、となっており、女性では「かかりつけ歯科医初診料」が 32.0%、「病院歯科初診料 1」が 25.2%、「歯科初診料」が 24.1%であった。

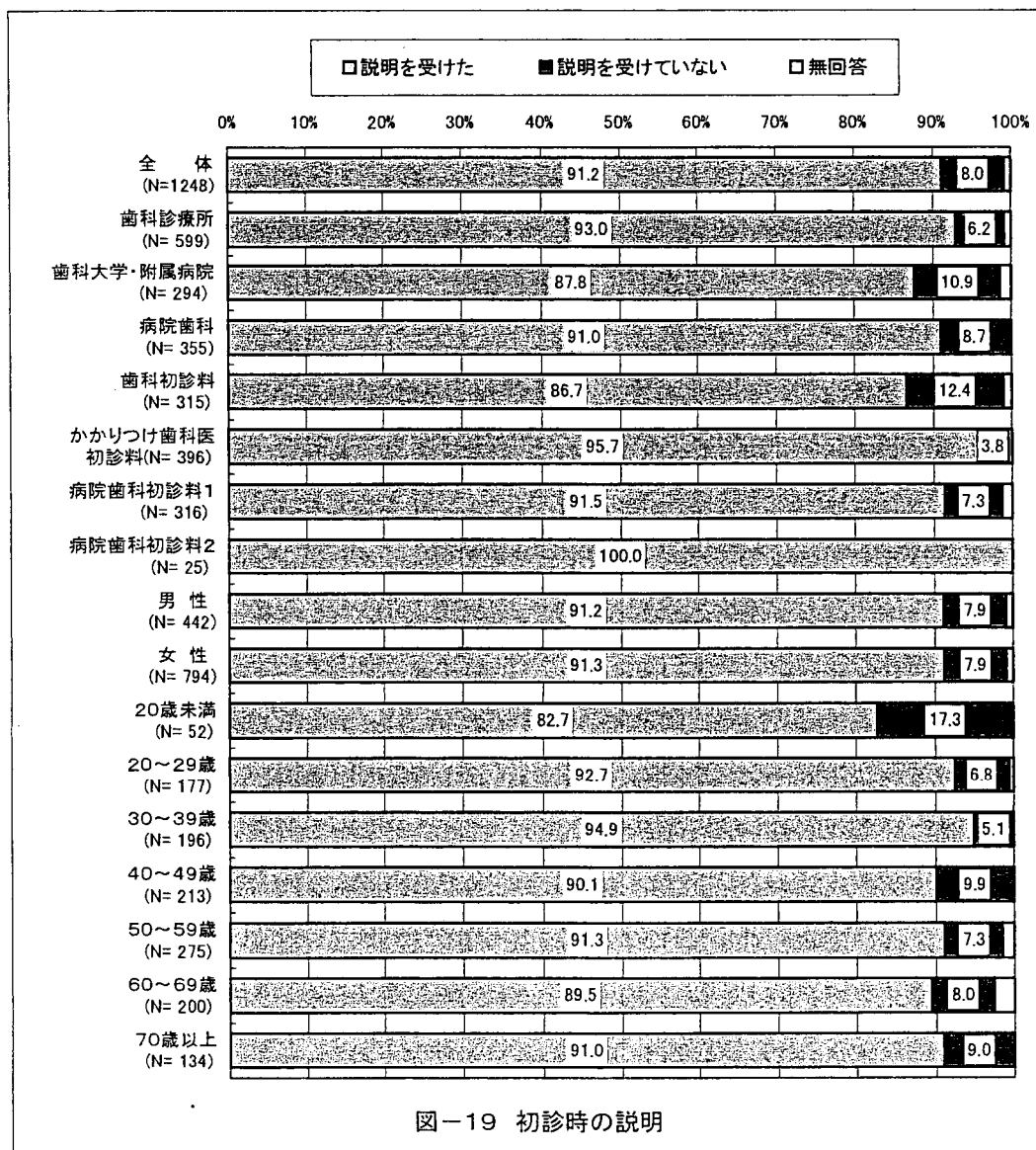
次に年代別に見ると、20 歳未満では「歯科初診料」「かかりつけ歯科医初診料」ともに 32.7%、次いで「病院歯科初診料 1」の 26.9%であった。20～29 歳では「歯科初診料」25.4%、次いで「病院歯科初診料 1」の 24.3%、「かかりつけ歯科医初診料」23.7%であった。30～39 歳では、「かかりつけ歯科医初診料」33.7%、「病院歯科初診料 1」30.1%、次いで「歯科初診料」の 19.9%であった。40～49 歳では、「かかりつけ歯科医初診料」が 39.9%、次いで「歯科初診料」24.4%、「病院歯科初診料 1」18.8%となっており、「かかりつけ歯科医初診料」の割合が高かった。50～59 歳では、「歯科初診料」28.7%、「かかりつけ歯科医初診料」27.6%、「病院歯科初診料 1」が 26.5%となっており、殆ど差が見られなかった。60～69 歳では、「かかりつけ歯科医初診料」35.0%が最も高く、次いで「歯科初診料」の 26.0%、「病院歯科初診料 1」の 25.0%である。70 歳以上では、「かかりつけ歯科医初診料」29.9%、「病院歯科初診料 1」26.9%、「歯科初診料」23.1%であった（図-18）。



5) 初診時の病名・治療期間・治療内容等の説明について

病名・治療期間・治療内容の説明の状況について、全体で見ると、「説明を受けた」との答えが91.2%、「説明を受けていない」との答えが8.0%となっており、大多数が説明を受けたと認識していた。医療機関の種類別に「説明を受けた」を見ると、「歯科診療所」が93.0%、「歯科大学・附属病院」が87.8%、「病院歯科」が91.0%であった。初診料の算定別に見ると、「歯科初診料」が86.7%、「かかりつけ歯科医初診料」は95.7%、「病院歯科初診料1」は91.5%、「病院歯科初診料2」は100%であった。

性別では差はなかった。年代別で見ると、「説明を受けている」と答えたのは、「20歳未満」の82.7%と60代の89.5%を除き、すべて90%以上であった(図-19)。





6) 説明内容が記入された文書の受領について

説明内容が書かれた用紙の受領について全体で見ると、「受領した」との答えが63.2%、「受領していない」との答えが35.6%で、6割強が用紙を受け取ったと認識していた。次に、医療機関の種類別に「受領した」を見ると、最も高いのが「歯科大学・附属病院」の70.2%、次いで、「歯科診療所」67.5%、「病院歯科」50.2%となっていた。

また、歯科初診料の算定別に「受領した」を見ると、「かかりつけ歯科医初診料」は77.3%、「病院歯科初診料1」は72.3%、「病院歯科初診料2」は40.0%、「歯科初診料」が39.6%となっていた。性別の差は殆ど見られない。年代別に「受領した」を見ると最も高いのが「40代」の67.7%、「30代」67.2%、「70歳以上」が65.5%となっており、最も低いのが「20歳未満」の51.2%であった(図-20)。

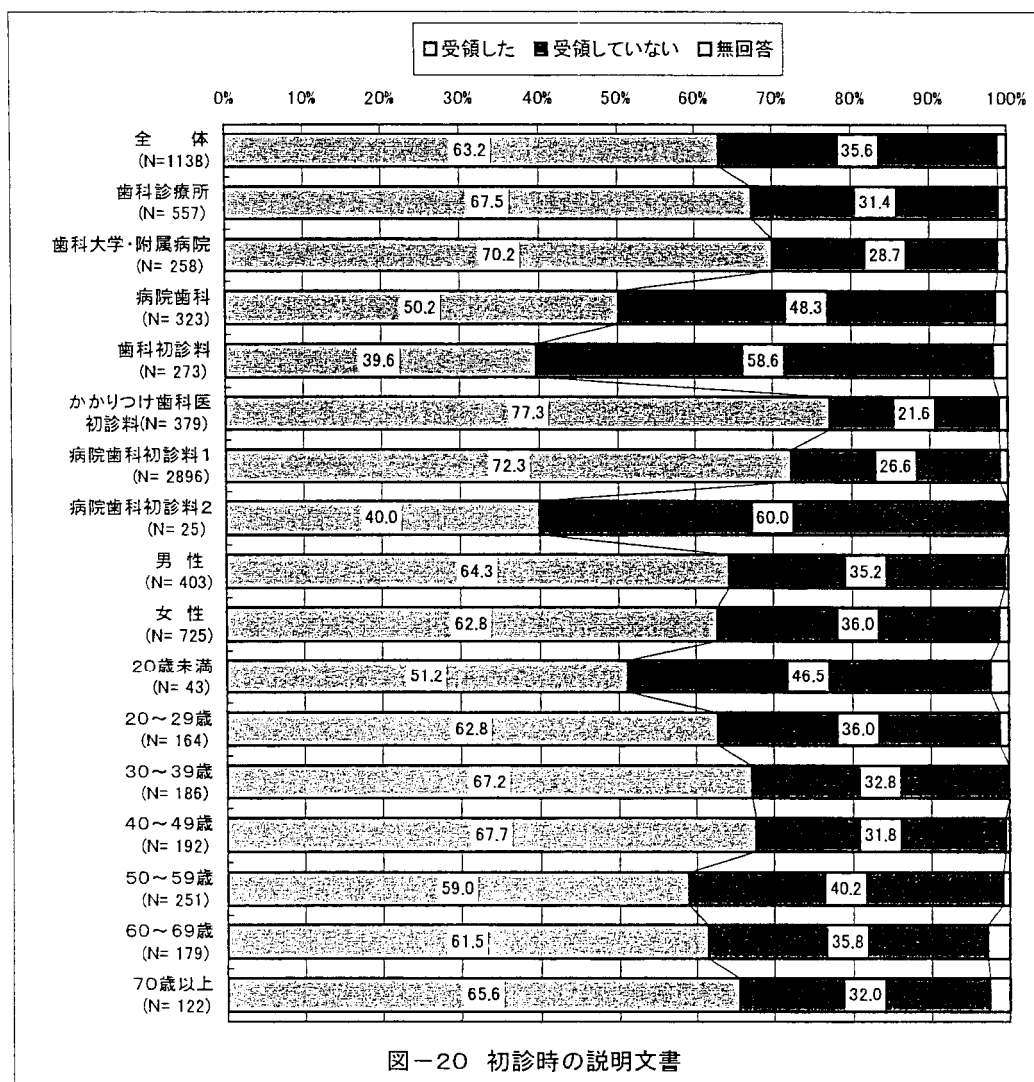


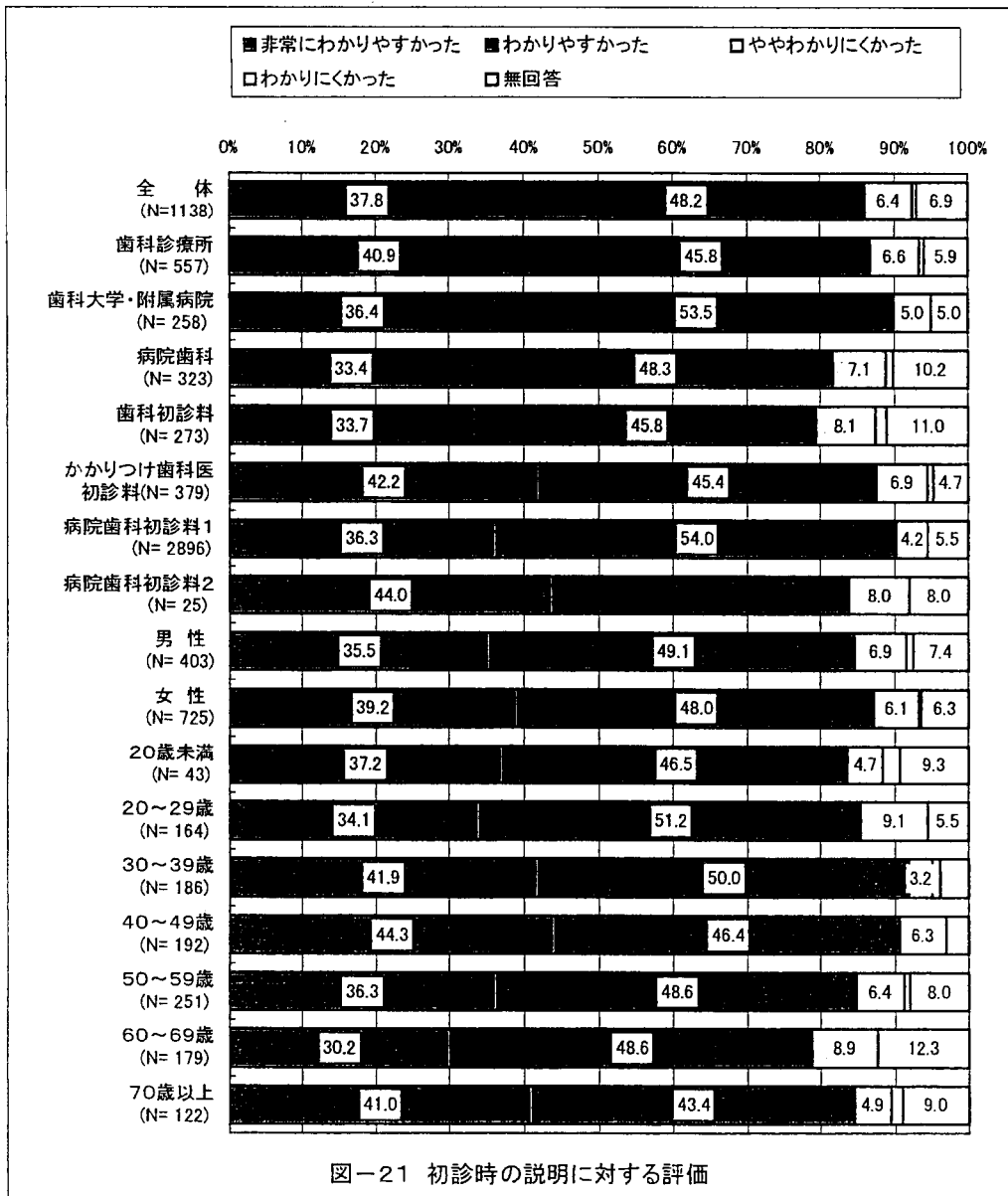
図-20 初診時の説明文書

以下、表現の中の『わかりやすかった』は「非常にわかりやすかった」＋「わかりやすかった」を、『わかりにくかった』は「わかりにくかった」＋「ややわかりにくかった」を合計したものを表記する。

7) 初診時の説明に対する評価

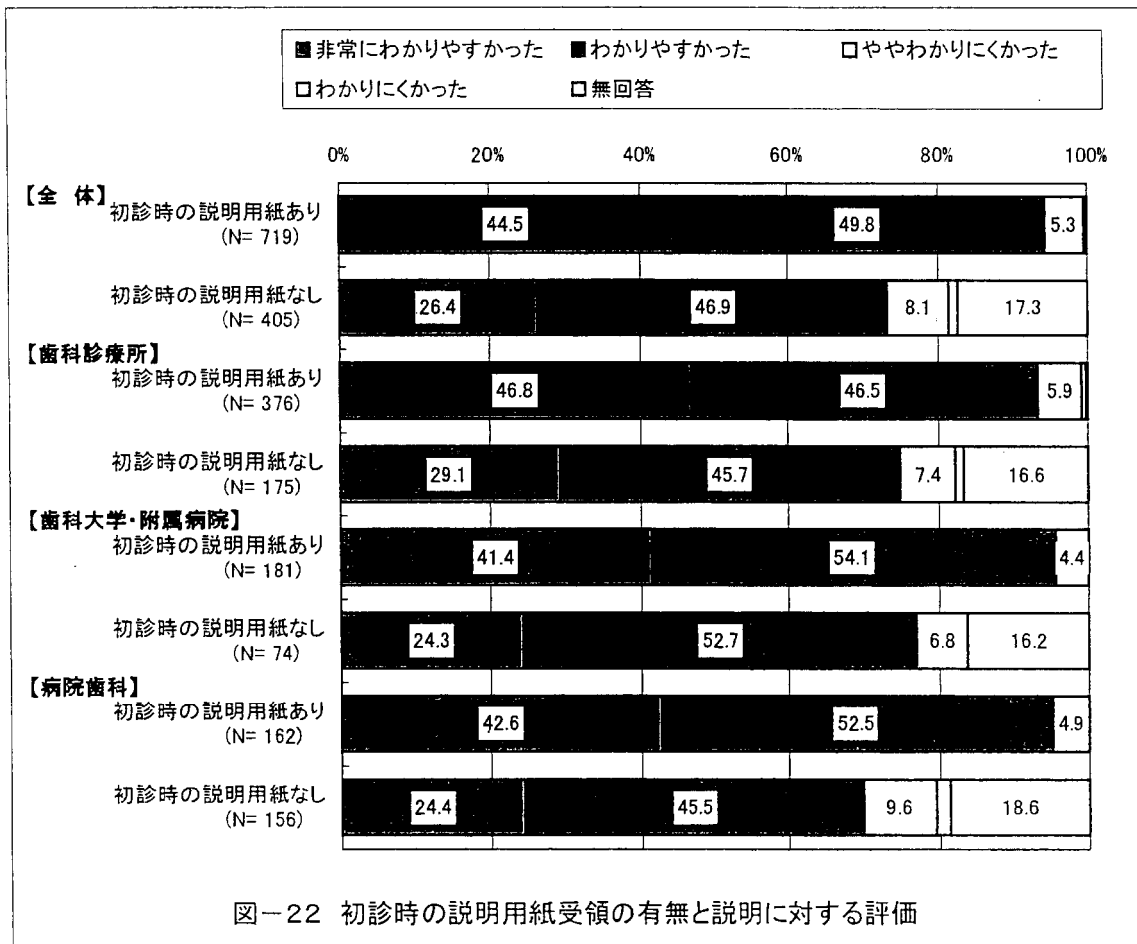
初診時の説明に対する評価を全体で見ると「非常にわかりやすかった」37.8%と「わかりやすかった」48.2%を加え、『わかりやすかった』が86.0%となっており、わかりやすいとの回答が多かった。また、「わかりにくかった」0.6%と「ややわかりにくかった」6.4%を加え、『わかりにくかった』が7.0%であった。

また、医療機関の種類別・初診料の算定別・性別・年代別に見ても大きな差は見られない(図-21)。



8) 初診時の文書受領の有無と説明に対する評価

初診時の文書受領の有無と説明に対する評価との関連を全体で見ると、「説明用紙を受領した」場合は、「非常にわかりやすかった」44.5%と「わかりやすかった」49.8%を加え、『わかりやすかった』という回答が95.3%であった。「説明用紙を受領しなかった」場合は、「非常にわかりやすかった」26.4%と「わかりやすかった」46.9%を加え、『わかりやすかった』という回答が73.3%であった。説明用紙を受領している方が、受領していない場合より、「非常にわかりやすかった」という答が多く、医療機関の種類別に見ても同様の傾向であった(図-22)。



9) 歯周治療について

歯周治療について全体で見ると、「受けた」との答えが 50.7%、「受けなかった」との答えが 46.9%であった。

医療機関の種類別に「受けた」を見ると、「歯科診療所」が 64.4%と最も高く、「歯科大学・附属病院」が 40.5%、「病院歯科」36.1%となっていた。

また、初診料の算定別に「受けた」を見ると、かかりつけ歯科医初診料では、67.7%、歯科初診料が 53.7%、病院歯科初診料 2 が 44.0%、病院歯科初診料 1 が 36.4%となっていた。

性別で「受けた」を見ると、男性が 55.9%、女性が 48.1%であった。次に、年代別で「受けた」を見ると、「60代」が 66.0%、「40代」が 56.3%、「50代」54.5%「70歳以上」が 50.0%となっており、40歳代以上では半数以上が歯周病治療を受けたと答えた。なお、最も低いのが「20歳未満」の 11.5%となっていた(図-23)。

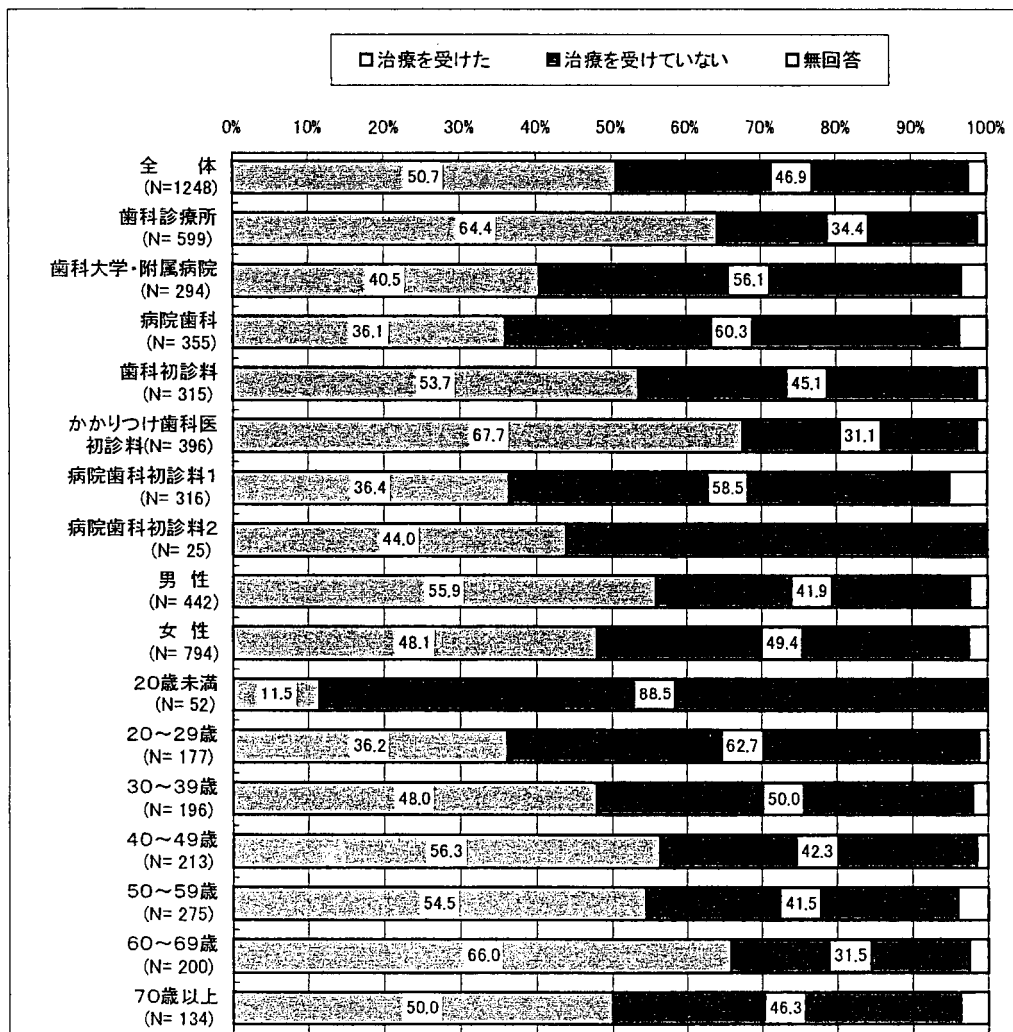


図-23 歯周病治療